

[月刊]

キャッチ ピース

43

通巻122号/1996.6.20 定価100円

自衛隊の海外派兵を食い止め、大幅軍縮を！
米軍基地を撤去しよう！
反核運動を継続し、核廃絶を！
憲法9条を世界に！
市民による平和政策を提起しよう！
草の根の国際共同作業を進めよう！

カールビンソンとリムパッカー-1996.5Yokosuka CTBT交渉はなぜ最後までもつれているのか 「有事法制研究」の研究①/沖縄キャラバンの報告



5.30横須賀で。(3号つづけて似たような表紙になった。平和船団の「出番」が多いということなのです)

- 維持会員 (月額) ●参加会員 (月額) ●通信会員 (年額)
- 個人1口1000円 個人1口 500円 3000円
- 団体1口2000円 団体1口1000円
- (会費は本誌購読料を含みます)

脱軍備ネットワーク
キャッチピース

大勢の人たちと

いつしよに

オキナワン・フオークブルース・コンサートを聴きにいった。楽しさとせつなさが交互に胸を満した三時間を過ごした。

終りに近い頃シンガーの一人が歌の間に語った。「会う度にいつもこのままでは死ねないと言っていた九五才になる伊江島の反戦地主の阿波根昌鴻さんが、今はいつ死んでもいいと言っている」と。

それは、去年の九月のあの事件のあと、沖縄の米軍基地をなくしたいという願いが全国の人々に通じたのを見て、これで本当に基地がなくなると実感したからだという。

客席ではつぶやいた。おじいちゃん、残念だけれど(?)まだ死ねない

よ。米軍基地をなくせ！なんてことはいまだ日本の本當の世論にはなっていないのだから。沖縄と本土の温度差は依然として縮まってはいないもの。

確かに去年九月のあの痛ましい女の子の事件を知って本土の女性たちは本當に怒った。あらためて「基地は構造的暴力で、軍隊は女性の人権を守るものではない」と知って「基地はいらない！」と叫んだ。県民の生命と暮らしを守るために国による軍用地の強制収用にノー！と言った大田沖繩県知事に拍手を送った人々の気持ちにウソはない。

マスコミも毎日毎日「沖縄の過去・現在」を報道した。だからみんな「いまま

で、沖縄のことを何も知りませんでした。こんなにくささんの米軍基地があることに驚きました」と素朴に感想を述べ、誰もが安保が沖縄にばかり押しつけてきた苦勞に心から申し訳ないと謝った。そして、沖縄に連帯しようとの声がいくつもいくつもあがった。：けれど、沖縄に連帯するというのはどういうことなのだろう。今本土の人々のどれほどが、「今日の沖縄」をみつめているだろうか。もし伊江島のおじいちゃんに「ありがとう」と言われたら彼の手を握り返せる人は何人いるだろう。

今回の安保再定義が予想以上の安保強化で、アメリカ軍の自由行動枠を大きく拡大するだけのものだった事実は、今それなりに国民に伝えられているはずなのに、なぜか人々は静かだ。「タイヘンだ」「タイヘンだ」とみんな騒がない。なぜだろう。「やっぱり安保はお国の最重要課題。素人が軽々に論じるようなことではない。国のリーダーの判断に任せて任せて」と政府と識者。「新聞を開けば難しい言葉のオン・パレード。やっぱり安保ってむずかしい。外交のことってよくわかんない。中国もコワイ

し、北朝鮮の動向も不安。引き続き米軍に守ってもらうのが一番いいみたい」と国民。人々の安保論議離れは日々加速。コレってダレが悪いのか。

とにかく困った、困ったと私。私の住む神奈川にある基地が戦争の役に立つことがどうしても許せないのに、まだずーっとこのままらしい。原子力推進艦がひしめきあったりして、横須賀の港は今や原発がある町と全く同じなのにダレも核事故を恐れない。

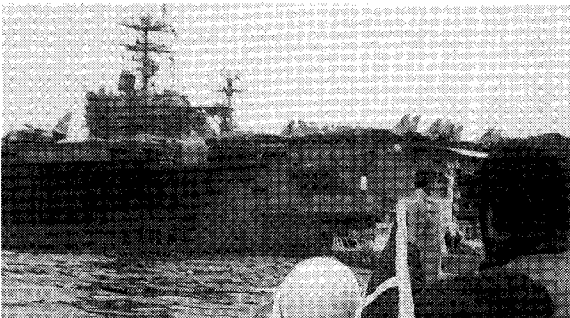
困った、困ったと私。困った、困ったと私とTさん。困った、困ったと私とTさんとMさん。困った、困ったと私とTさんとMさんとMくん。：そう、ここはヨコハマのキャッチピースの部屋。この月刊キャッチピースも時々難しい言葉ばかりが並ぶけれど、出来るだけやさしい言葉で真実を伝える努力を心掛けたい。みんながわかって、大勢の人々の参加を促し、この国の在り方に敢然と立ち向かわなければ。

さらに一案。今をときめくSMAPの香取慎吾くん(ホント事務所のご近所なのだ)にでも安保反対って叫ばせるっていうのはどうかしら。今度駅で会ったら頼んでみよう。

(山中悦子)

カルビンソンと リムパック

「再定義」後のヨコスカ▶



五月三〇日朝、空母カルビンソンなど五隻が横須賀に入港した。

- ・原子力空母カルビンソン
- ・原子力ミサイル巡洋艦アーカンソー
- ・通常型ミサイル巡洋艦シャイロ
- ・原子力潜水艦ジェファソン・シティ
- ・原子力ミサイル巡洋艦カリフォルニア

「安保再定義」を实践

一ヶ月半前の「日米安保再定義」をさあどうだとアピールする、政治的・軍事的示威行動である。横須賀を母港にするインディペンデンス戦闘団はハワイ沖で日本など五ヶ国との環太平洋合同演習(リムパック96)に参加中。東アジアに空白を埋める空母戦闘団の前進配備によって、米国は、九三年九月「ボトムアップレビュー」に示されたとおり、「二つの大規模地域紛争」に同時に対処する「力と意志」を示した。それは同時に唯一の空母戦闘団の海外母港・横須賀が世界戦略の要石であることの再確認であった。カルビンソンは横須賀を出港後海上自衛隊と対潜訓練を行い中東に向った。ハワイと日本近海そして中東。そのうち二つの地域で空母戦闘団と行動を共

にしながら、自衛隊もまた「集団自衛権」の階段を駆け上がっていく。

七つの「無認可」原子炉

梅林宏道さんは、著書「隠された核事故」中で、軍艦の原子炉の性能について下表のように推定している。この数字によれば五月三〇日から六月二日までの三日間、七基、推定熱出力合計二八八万キロワットの原子炉が横須賀港には設置されたことになる。この熱出力は電気出力九六万キロワットに相当する。一般的な商業炉に匹敵する規模の原子炉が、事前審査も公聴会もひらかれないまま、交通過密の浦賀水道を通って人口密集地の目と鼻の先に設置されたことになる。異常な事態といふべきだろう。原子炉の個数が増えればそれだけ事故の確率も高まる。しかも、市には原子炉事故を想定した防災計画はいっさいないのである。

「母港への布石」

もし空母の母港をこのまま将来にわたって継続するならば、この今日では異常な事態が、横須賀の近い将来の日常で

このような二転三転する入港時刻と、四隻の原子力艦同時入港という状況の中で、市の放射能測定は満足に行われたのだろうか。平和船団の船上から市の放射能測定船「きぬがさ」の動きを追っていた広沢努さんは次のように報告している。「四隻の原子力艦のうち、放射能測定船が常時付近にいるのを確認したのは、原潜ジェファソンシティ（後方一〇〇三）の時だけでした。原子力巡洋艦アーカンソーとカリフォルニアの入港時にはついていませんでした。カールビンソンは実視確認していませんが、一部ついていました」（非核市民宣言運動ヨコスカ「たより」九〇号）。海軍の勝手な行動は、市民の安全に直結する放射能測定すらも骨抜きにしまったのである。

海と陸から抗議行動

ヨコスカ平和船団はクルーザー「エスペランサ」とヨット「おむすび丸」に十二人が分乗して抗議行動を展開した。突然変更された入港時刻に振り回されながらも、朝五時にはそれぞれの係留場所を出港、カールビンソンに追いついた。正味六時間の海上行動の後には基地ゲートで

入港した4隻の原子炉

＜梅林宏道「隠された核事故」(創史社)より引用＞

| 艦名 | 原子炉数 (基) | 熱出力 (万Kw/基) | 熱出力計 (万Kw) |
|-----------|-------------|----------------|---------------|
| カールビンソン | 2 | 90 | 180 |
| アーカンソー | 2 | 23 | 46 |
| カリフォルニア | 2 | 23 | 46 |
| ジェファソンシティ | 1 | 16 | 16 |
| 合計 | 7 | - | 288 |

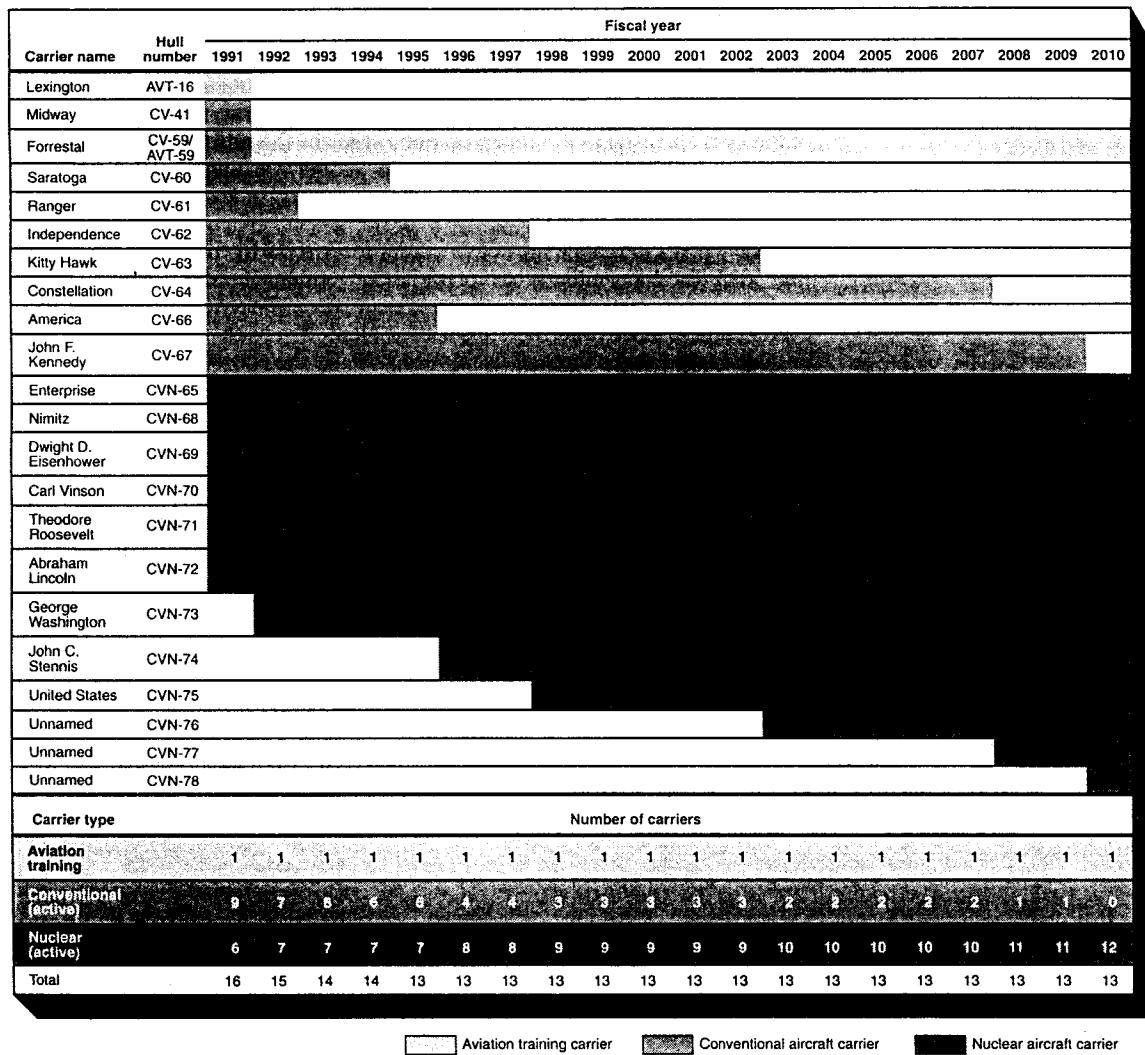
もあることを、私たちは知っておくべきだろう。次ページに掲載するのは、一九九三年二月に作られた米国会計検査院の「空母戦闘団」という報告書に載っていたグラフだ。現在横須賀を母港にしている空母インディペンデンスは九七年には

退役、後継艦には通常型空母コンステレーションが予定されている。そのコンステレーションも二〇〇七年には退役。二年後の二〇〇九年には最後の通常型空母ジョン・F・ケネディが退役する。その時点で、米海軍が保有する空母はすべて原子力。このような推移を見据えての「原子力艦ならし」の意図が、四隻同時入港に隠されていることは間違いないだろう。

勝手な基地運用

さらに今回の入港は、基地運用上も大きな問題を残した。横須賀市には最初三〇日九時入港との通告があった。それが八時に変更され、前日の午後五時すぎになつて七時に変更されたのである。市が行う放射能測定にとつても、交通過密な浦賀水道の管制にとつても重大な支障をきたしたものと想像される。このような「事前通告」を形骸化するような勝手な行動によつて、海軍は少しづつ、確実に「制約」を取り払っていく。それがまた、安保再定義を「実質化」していくための「環境整備」のいっかんだとでも考えているのだろうか。

Figure II.1: Current Navy Aircraft Carrier Force Structure Plan Through Fiscal Year 2010



抗議!

中国 核実験

一九九六年六月一日
中華人民共和国 国家主席
江沢民様

包括的核実験禁止条約(TPNF)交渉が重要な進展を見せている中、6月8日、貴国がロブ・ノルで通算44回目の核実験を行ったという報道に私たちは大きな衝撃を受けました。核実験を全面的に禁じた重要なステップとして核実験を全面的に禁止しようという国際社会の努力のその目前での核実験の強行は人類の英知に対する冒瀆以外の何物でもありません。私たちは心底怒っています。貴国が核兵器で自国の安全を図ろうと考えているならば、それは大きな間違いです。核抑止論は人類が乗り越えるべき旧時代の最悪の遺産です。核実験は核兵器によって守られる安全をはるかに上回る危険と現実の被害を人々と環境に与え続けています。ネバダで、セミパラチンスクで、ムルロアで、そして間違いなくロブノルで！

今こそ核信仰を捨て、将来にわたる保有計画を中止してください。貴国が固執する「平和目的の核爆発」も含め、もう二度と核実験を行わないことを宣言してください。そして、東アジアの非核化と人間の安全保障を作り出すための具体的な協議の場に加わってください。こうした決断こそが真の名譽ある道であることを私たちは疑いません。

脱軍備ネットワーク・キャッチピース

の抗議行動。一方県平和運動センターとヨコスカ地区労は、入港ルートにあたる観音崎で抗議行動(一三〇名、夜は三五〇〇人が抗議集会とデモ。市民グループもこれに合流した。原水協系は朝の観音崎の抗議行動と、昼からゲート近くで座りこみ。

マスコミ・自治体の後退

マスコミはこぞつて、「反対運動の沈滞」を書いた。残念ながらそれは認めざるをえない事実だろう。しかし後退したのは、自治体とそれからマスコミではなかったのか。新しい感覚で「原子炉七基の集中設置」と「原子力艦母港化」問題に焦点をあてた報道はほとんど皆無だった。自治体は、すでに九四年三月のカーリンソン入港の時に「原子力空母入港反対」の旗を降ろしている。

安保再定義の中での基地強化、それに比例する形で拡大するだろう原子炉の危険性、そして勝手な基地運用、横須賀の空母母港が抱える問題は何一つとして「風化」していない。それどころか新しい危険・不正・問題がこれからも再生産されていくのである。

リムパック96

軍隊は自国を離れたところで一人歩きを始める。

そのころハワイ近海では、米国、オーストラリア、カナダ、チリ、韓国そして日本の海軍による環太平洋合同演習「リムパック96」が行われていた(演習期間五月二二日から六月二二日) 艦艇四四隻、航空機二五〇機、兵員三万人以上が動員されたこの演習に、日本は護衛艦九隻、補給艦一隻、潜水艦一隻、P3C対戦哨戒機八機と二〇〇〇人を派遣した。六月四日には海上自衛隊護衛艦による米軍機誤射事件がおこった。肝心の演習の中心はどうだったのか。

次ページに訳出したのは、米海軍の「ネイビー・ニュース・サーピス」で配信されたリムパック報告である。近海(アラウンウオーター)での演習、大使館救出作戦など、地域紛争をにらむ米戦略に沿った演習である。まるで「極東有事研究」で取りざたされている「邦人救出」のシナリオではないか。そうなのである。軍隊は自国を離れたときに本性を表す。「研究」や「論議」を飛び越えて一人歩きを始めるのだ。(田巻一彦)

リムパック96 六ヶ国の大演習終了

〔ハワイ、パールハーバー発(NNS)〕
中部太平洋での六ヶ国による大演習であるリムパック96は六月二二日に終了した。

この多国間演習は環太平洋の六ヶ国からの四九隻の艦船で実施された。その六ヶ国とは、オーストラリア、カナダ、チリ、日本、大韓民国、それにアメリカ合衆国である。

コンラッド・C・ローテンバッハ海軍中将を総指揮官とするこの一月間の演習の最大の目的は、太平洋の同盟国間の協力を強化し、この地域の安定を促進することであった。ここ数年、リムパックは変化する時代を反映して変容を遂げた。最初のリムパックは一九七一年に行われた。当時はアメリカは、通称「ブルーウォーター」つまり外洋での戦闘に備えることに精力を集中していた。今日の海軍は、潜在的脅威を安定させるべく大きく再編され、海の浅い部分である陸地近くの「ブラウウンウォーター」海域、いわゆる沿岸海域で効果的に行動している。「リムパック96は沿岸海域での訓練の優れた見本であった」。米艦コロナド艦上からこの演習の全般的

な指揮を行ったローテンバッハ中将は語った。「我々は沿岸海域での戦闘に含まれるあらゆる局面の演習を実施した。潜水艦作戦、水上戦、空戦、海岸越えの攻撃と兵力投入の実施などである」「リムパック96が証明したことは、我々は素晴らしいプロフェッショナル集団を持っていることだ。彼らは、我々が太平洋地域で享受している平和を強固なものにし、守るために、共に働き成功を収め得ることを示した」。

オーストラリア海軍の給油艦サクセスの艦長のステイブン・A・マーレーはこう語る。「私がリムパックに参加したのは今回が初めてでしたが、いい機会を与えてくれました。他の国のシーマンシップの中にあるプロフェッショナルリズム、彼らの異なったシグナル、そして彼らの文化などを観察し学ぶことができましたから」。この演習は五月二二日から六月二二日にかけて行われた。リムパック96のハイライトは次のようなものだ。

*最近リベリアであったような大使館救出作戦の模擬演習が、ハワイの

カネオヘ湾の海兵隊基地で実施された。

*ハワイカウアイのバーキングサンズでの強襲上陸。これには強襲揚陸艦エセックス、ドック型輸送揚陸艦クレイブランド、ドック型揚陸艦ハーバースフェリーが参加した。

*カウアイ沖での二回のミサイル演習。これには、五六の標的、の対空ミサイル、の対艦ミサイル、それに多くの魚雷と爆弾が使用された。

ローテンバッハ中将によると、リムパック96は太平洋の六ヶ国が次のような明瞭なシグナルを送る機会を提供した。それは、彼らの協力が航海の自由と経済取引の発展を保障するということである。「我々六ヶ国は、海洋から前方へと展開する柔軟かつ能力の高い海軍を持っていることを、自ら確認した」。第六艦隊の指揮官でもある中将はこう続ける。「世界の中で死活的に重要なこの地域の平和と安定を保障するには、それがもっとも確かな要素だ」。

(訳・青木雅彦)

最終局面にもつれこんだCTBT

全面的核実験禁止条約

核実験をやめる合意がなぜ出来ないのか

田窪雅文 ● 市民エネルギー研究所

ギリギリの 議長最終案

全面的核実験禁止条約（CTBT）の交渉を行っているジュネーブ軍縮会議（CD）核実験禁止特別委員会は、六月二十八日、ラマカー議長（オランダ軍縮大使）が、条約案を議長案の形で提示しただけで今年の第二会期を終えた。

今年中に条約調印を実現させるには、第二会期中に少なくとも条約案の基本台

意が成立していることが望ましかった。だが、最終的議長案の提示は会期最終日となり、基本的合意を得る時間的余裕もないまま、決定は七月二十九日から始まる最終会期に持ち越された。年内調印のためには、遅くとも八月一六日までに最終合意をした上で、九月に始まる国連総会に提出しなければならぬ。議長は、このための日程をぎりぎりでごなしたともいえる。

現在焦点となっているのは、条約で禁止される実験の「範囲」、現地査察の条

件、条約発効の条件である。特に問題なのが発効条件である。核保有を宣言している五カ国と、核保有の疑惑のある三カ国（インド、パキスタン、イスラエル）すべての批准を発効の条件とすることを英口両国が強く主張している。インドは、こうした形で名指しを受けることに反発している。インドはまた、期限（一〇年）内の核軍備撤廃に核保有国が合意することを発効の条件にするよう主張している。核保有国はこれに頑強に反対しており、妥協の道を探ろうともしていない。

い。つまり現状では、インドが調印、批准する可能性は低く、英口は、その可能性を高める努力をしないまま、インドの批准を発効の条件にしようとしている。そもそも両者とも条約の成立を望んでいないのではないかと疑いたくなる。このような中で妥協案として出されたのが議長案である。反核運動の中では、不満な点も多いが年内調印のためには、議長案を支持するべきだとの声が強くなっている。

これまでの 足どり

CDは、一九六〇年にNATO加盟国五カ国とワルシャワ条約機構加盟国五カ国で開かれた一〇カ国軍縮委員会をきっかけに、その後さまざまな変遷をへて八四年に設立された、現在ある唯一の多角的軍縮交渉の場である。参加国は、六月一八日に三七カ国から六〇カ国に拡大された（公式には六一カ国だがユーゴスラビアが分裂した後同国の席が空いたままになっているので実際には六〇カ国である）。ただし新規参加国グループの中に国連の制裁の対象となっているイラクが

入っていることから米国がグループの一括受け入れに反対していたため、新規参加国側が自主的には二年間は拒否権を發動しないとの宣言をしての参加となっている。新規参加国には、イラクのほかイスラエル、南北朝鮮などが入っている。もともと、核保有国五カ国のほか、インドとパキスタンが入っていたから、これで問題の八カ国が全部出そろった。

核実験禁止特別委員会に、CTBT成立をめぐらした交渉の権限が与えられたのは、一九九四年のことである。九五年春に開かれた核拡散防止条約（NPT）の再検討・延長会議までにCTBTが締結される可能性もあったのだがこれは実現しなかった。非核保有国の側は、NPTの無期限延長または長期延長を望むのならば、再検討・延長会議までに条約を成立させる努力をせよと迫っていたが、九四年の最終会期でできたのは、各国のさまざまな案を併記した一〇〇ページもの長さの文書だった。結局、NPTはCTBTの成立をみないまま無期限延長された。ただ、無期限延長の決定とともに採択された決議文書では、NPTの約六条が核保有国に義務づけた核軍縮の努力の実施にとつて、九六年中のCTBT成

立が重要だと宣言されている。これが延長過程で非核保有国が勝ち取った数少ない成果の一つとなった。

何が焦点 なのか

①「ゼロ・イールド」

範囲は、「すべての核兵器実験爆発及び他のすべての核爆発」を禁止するというオーストラリア案で決着がついている。交渉開始当初は、核保有国の軍部や核兵器開発関係の研究所などが、何とか小規模の実験を残そうと試みていた。昨年夏にあらゆる規模の実験の禁止を支持すると米国が発表して以来他の核保有国もこれに従うようになった。米国案は、条約で認められる爆発の威力をゼロとするもので、ゼロイールドと呼ばれる。ただし条約の中では前記の文言を使うことになっている。（その後米国は、未臨界実験という小規模の実験はゼロイールドの方針に反しないとして、その実施計画を発表した。六月にその一回目が予定されていたが、交渉への影響を考えてか、実施は延期となった。）

②「平和利用核爆発」

中国だけがダム建設、地震探査などの「平和利用核爆発（PNE）」の可能性を将来に残そうと頑張っている。最終的議長案では、PNEは、第七条（再検討）で触れられている。中国は、最初PNEを条約の下で認めさせようとしていた。だが、最近では、一応禁止することを認めた上で、発効から一〇年後に開かれる再検討会議がPNEを取り上げることとを、「範囲」に関する条項の中で明言するよう求めていた。日本など、PNEへのいつさの言及を嫌う国々と中国の立場の中をとったのが議長案である。「範囲」の部分では、すべての核爆発を禁止した上で、再検討会議においてPNEについてコンセンサスが得られれば実施を認める修正案を作成するというものである。現実的にはこのようなコンセンサスが得られるはずはないから、PNEは葬り去られていってよい。

③検証・査察

検証問題では、核実験が疑われたとき、どのような条件で現地査察を実施するかで主張が分かれている。米国ができ

るだけ査察を容易にしたがっている一方で、中国などが査察実施の条件を厳しくして査察の「乱用」を防ごうとしている。議長案では、CTBTのために特別に設置される国際的監視システム（地震探知ネットワークなど）だけでなく、各国の独自の技術的手段（人工衛星など）によって得られた情報も、査察要請の基礎とすることができ、要請について五カ国の執行理事会のメンバーの過半数の賛成があれば査察を実施できるとなっている。

④発効条件

発効問題では、前述の通り、核保有国と疑惑国、合わせて八カ国の批准を発効の条件とするかどうかが争点である。これら八カ国が入らなければ条約の意味がないという見方がある一方で、八カ国の参加を条件にするとそのうち一国でも条約に加盟しなければ条約は永遠に発効しないということになってしまうと恐れる声も強い。

議長案では上記八カ国を含めた四四カ国のリストを掲げこれらの国々の批准を発効の条件にしている。三年以内に条件が満たされない場合は、批准した国々の

過半数の要請があれば、「批准推進」のための会議を開ける。会議は発効まで毎年開くことができる。この会議では、検証体制の暫定的実施などは決められるが、四四カ国の批准という条件は変更できない。一国でも何らかの理由で批准しなければ、条約は発効しない。

インドが核にこだわる理由

インドが核のオプションにこだわる理由を考えてみたい。まずインドは核の脅威を感じている。相手はパキスタンと中国である。現在主要な脅威とみられているのはパキスタンである。ニューデリーの発展途上社会研究所のギリ・デシンカーは、現在では中国の「脅威」は、インドの核のオプションを正当化するためだけに使われるようだとさえ述べている。また、インドでは、国家の威信を獲得するのに核兵器が役立つと考えられている。経済力が低くても核があれば威信が得られることを中国が示しているとみられている。さらに、インド政府は自ら作り出した核武装要求の世論に逆縛られてしまっているようである。特に米

国の圧力に屈して核のオプションを放棄したとみられることは政府にとって致命的である。

ここで、インドとパキスタン・中国との緊張関係の歴史を簡単に振り返っておこう。英国からの独立から間もない四七年、カシミール帰属問題でパキスタンとの紛争。六二年中国との国境紛争で大敗。六四年中国核実験に成功（このときインドの核武装を求める声が強まった）。六五年九月再び印パ紛争。中国は、パキスタンに加勢する構えを見せたと伝えられる。九月二三日、停戦。翌日、八六人の議員が首相に核武装の決定を迫る書簡を送る。六六年中国、中距離弾道ミサイル実験。六七年中国水爆実験。七一年東パキスタンの独立運動をめぐって印パ紛争。米国は空母エンタープライズをベンガル湾に送りインドとソ連を威嚇。（これがインドの人々の記憶に深く刻まれ、米国からの核拡散防止の圧力に不快感を覚える原因の一つとなっていることは想像に難くない。）結局はインドが勝利し、バングラデシユの独立をもたらす。七四年インドの「平和利用」核実験。

五四年にCTBTを提案したインドが

CTBTに抵抗しているのは、皮肉なことである。インドはNPTの交渉にも積極的に参加しながら、最終的にはインドには「特別な」問題があるとして調印しなかつた。中国のことである。

核保有国の責任重大

もちろん問題はインドだけではない。核保有国の側に問題があることはいうまでもない。米国はゼロイールドの方針を発表した際、核兵器をこれからも維持し、いざというときに備えて実験再開のための準備をしておくことなどを明らかにしている。ロシアも同様の政策を発表している。これには、CTBTの批准を容易にするためという理由もあるだろうが、核保有国の側に核兵器を近い将来放棄する気のないことは確かである。インドは、この点を突いてくる。正論ではあるが、インドの側にも核のオプションを放棄する気がないように見受けられる。

核保有国の側は、少なくとも、期限を区切った核廃絶計画の必要性を「精神」として条約の前文で認めるなどすれば、インドに対する非同盟国からの圧力も高

まっていたらう。最終会期が始まるまでに何らかの妥協が成立すればいいが、でなければ議長案のまま通過させるしかないかもしれない。会期が始まってから議論するのは、合意がいつ成立するか分からない。CDはコンセンサスでのみ決定を行う。インドは、条約案に不満があってもコンセンサスを阻止しはしないだろう。調印しないだけである。どうしても合意が成立しない場合には、一部の国々が議長案をそのグループの条約案として国連に提出する可能性もある。ただその場合にはCDで合意した条約案と重みが異なることになる。



日本には、「まだない」と思ったら

大間違い。まずその点から。

青木雅彦 ● 反戦ドタバタ会議

【有事】戦争・事変や特別大きい天災・人災など、緊急の事態が起ること。
【立法】有事の際に対応するような法律を作ること。(三省堂新明解国語辞典)

四月の橋本・クリントンによる「日米安保共同宣言」以来、「有事立法」という活字が新聞の紙面に急に登場する回数が増えた。もちろんここで言う「有事」は、「戦争・事変」であり、大災害対策を政治家が真剣に考え始めたということではない。「極東有事研究」を具体的に盛り込むことが決まった新「ガイドライン」の一応の合意がこの秋に予定されて

設、労務を強制的に調達することを可能にするもので、戦前の「徴発令」、「国家総動員法」の規定の一部などと本質的な違いは全くない。自衛隊法の成立とともに古い条文だが、問題にされていないのは、これまで一度も発動されたことがない、いわば死文であると見なされているからだろう。
もちろんこれに満足しない人たちがいる。七八年ごろからの「有事立法」論議の高まりを背景に、防衛庁は、八〇年代初期に二度にわたって、すでに存在している「有事法制」の「不備」について研究報告を公表した(次ページ表参照)。
この三つの分類の中で最後の「所轄官庁が不明な法令」については公表されていないが、実際には様々な法令が「有事研究」の対象となつていくことが判る。これから有事立法に反対しようとしている人には氣勢をそがれる話だが、防衛庁はこの報告で、有事の際の自衛隊の行動に関して「現行自衛隊法で骨格は整備」されていると自信を見せている。自衛隊に限れば必要な新規立法はほとんど無いというのだ。しかし彼らが最大の問題と考えていたのが、前記一〇三条を有効にするためには様々な政令が制定されな

いることが推進要因になつていく。それにしても冷戦が終結したのになぜ「有事」の論議なのか?そもそも「有事立法」とはどんな法律なのか?この小文では、後者を先に整理して、前者(在日米軍との関係が中心)を次回に述べることにする。

有事立法(あるいは有事法制。後者の表現が政令等を含むため正確)は戦後政治史の中で何度か大問題になつてきた。この言葉を聞いたことがないという人も少数だろうが、その中味を正確に整理できている人は

有事法制研究の研究 ①

もつと珍しいのではないだろうか。最も大きな誤解は、日本には「有事立法」(戦時の緊急時の規定)がまだ存在していない(善悪はともかくとして)ということだろう。

とつくに「骨格は整備」

確かに現在の日本国憲法には、「非常事態」の規定(例えば戒厳令に類するもの)がない。しかし日本でも例えば「災害救助法」では、大災害時には土地や労務の提供が義務付けられており、もちろんこれは基本的人権の一時的制約である。「戦時」はどうか? 憲法には当然戦時という概念はないが、自衛隊法ははつきりと「戦時」の際の「軍」の行動を規定している。

この点で大きな誤解は、自衛隊法は自衛隊の行動だけを規定しているもので、一般国民には適用できないと思われていることだ。もし日本本土が戦場になることを考えると、自衛隊だけでは戦えない。国民の「協力」が不可欠だが、それを定めたのが、自衛隊法一〇三条(囲みに引用)だ。一読しただけでは理解しづらいが、要するに住民から、物資、土地・施

資料

自衛隊法

第一〇三条 (防衛出動時における物資の収用等)

第七十六条第一項の規定により自衛隊が出動を命ぜられ、当該自衛隊の行動に係る地域において自衛隊の任務遂行上必要があると認められる場合には、都道府県知事は、長官又は政令で定める者の要請に基づき、病院、診療所その他政令で定める施設(以下本条中「施設」という。)を管理し、土地、家屋若しくは物資(以下本条中「土地等」という。)を使用し、物資の生産、集荷、販売、配給、保管若しくは輸送を業とする者に対してその取り扱う物資の保管を命じ、又はこれらの物資を収用することができる。ただし、事態に照らし緊急を要すると認めるときは、長官又は政令で定める者は、都道府県知事に通知した上で、自らこれらの権限を行うことができる。

2 第七十六条第一項の規定により自衛隊が出動を命ぜられた場合においては、当該自衛隊の行動に係る地域以外の地域においても、都道府県知事は、長官又は政令で定める者の要請に基づき、自衛隊の任務遂行上特に必要があると認めるときは、内閣総理大臣が告示して定めた地域内に限り、前項の規定の例により、施設の管理、土地等の使用若しくは物資の収用を行い、又は取扱物資の保管命令を発し、また、当該地域内にある医療、土木建築工事又は輸送を業とする者に対して、当該地域内においてこれらの者が現に従事している医療、土木建築工事又は輸送の業務と同種の業務で長官又は政令で定める者が指定したものに従事することを命ずることができる。

3 災害救助法(昭和二十二年法律第百十八号)第二十三条の二第二項及び第三項並びに第二十三条の三の規定は、前二項の規定により施設を管理し、土地等を使用し、物資の保管を命じ、又は物資を収用する場合について、同法第二十三条の二第二項、第二十四条第五項及び第二十九条の規定は、前項の規定により医療、土木建築工事又は輸送に従事する者を長官又は政令で定める者の指定した業務に従事させる場合について準用する。

4 第二項に規定する医療、土木建築工事又は輸送に従事する者の範囲は、政令で定める。

5 前四項に定めるもののほか、第七十六条第一項の規定により自衛隊が出動を命ぜられた場合における施設の管理、土地等の使用、物資の保管命令、物資の収用又は業務従事命令については必要な手続は、政令で定める。

6 第一項又は第二項の規定による処分については、行政不服審査法による不服申立てをすることができない。

の研修室はほぼ満員になった。

歓迎集會に二〇〇人

沖繩県人会のメンバーが踊りを披露。広島から主催者として岡本三夫代表があいさつ。更に衆議院議員の小森竜邦さんも国会の終了と同時に駆けつけてくれた。まず沖繩からのキャラバン隊4人（鳥袋さん、花城さん、友寄さん、そして大城さん）の紹介をし、歓迎の拍手。鳥袋参議院議員が、沖繩社会大衆党の歴史を踏まえつつ、今回のキャラバンの趣旨を説明し、合わせて沖繩の基地の現状や県としての基地縮小へ向けた政策が報告された。次いで花城さんが、南回りコースでの申し入れの様子や、各地の状況を報告。日出生台での実弾演習の候補地になっている玖珠町、湯布院、九重町では、直前に3町による反対連絡会が結成されたばかりということもあって町長も含め、大歓迎を受けたとの報告。これに対し、岩国や佐世保では、「国防は国のやること」「安保を認める以上、基地撤去とは言いにくい」となかなか腹を割っての話には成らなかったという。長崎は、被爆地として、戦争の被害・犠牲

という点では共通しているが、こと基地の問題についてはあまり関心がないという印象。地域により温度差は大きいのが、地元の住民・市民団体との交流はどこも熱かった。その後、第二部として、地元からの報告やあいさつが続く。沖繩県人会の太田さんが、地元の県人会としてあいさつ。岩国からは、田村さんが、岩国での基地拡張の現状や市民の意識の分析など、ホットな報告が一〇分にわたって行われた。六月一日、自治労が行った、市民へのアンケートでは、多くの人が、移転や沖合移設に反対の意向を持っていることが見えてきた。現在、ハガキでの回答が一五〇〇通を越えつつあり、この分析を通じて市民の意識がいくらかでも見えてきそうだという。私は、呉の基地強化が依然続く象徴的な例として、リムバックへの呉の関わりについて話し、この状況を突破するには、全国的な市民のネットワークが必要で、そのために今回のキャラバンは大きな財産になるだろうことを述べた。花城さんがしきりに、「点から点を結んで線にするのが、このキャラバンの仕事」とくり返し話していたことを支持する発言を行った。最後にフォーラムフリーを代表して小寺さんが

とは、非常に有効だったと思う。三時四五分から四時半まで市への申し入れ。九人。松永正義基地対策担当部長が対応。このところいつも出てくる人だ。私が、口火を切って簡単に紹介したあと、いつもの調子で花城さんが説明。対応した総務部長は「防衛は国の専管事項で」「安保そのものは重要」との立場の違いがあるの」と歯切れは悪かったが、花城さんが「その立場の違いを前提としつつも、共通の問題はあるはず。その共通な面を少しでも多くする努力をしたい」と前向きに提案した。山口県、岩国市とも、沖繩との立場の違いや温度差を感じさせて、地元を受け入れ団体としてはいらした。が、沖繩からの県知事や各首長のメッセージを携えて、それを関係した自治体に届けていくというスタンスは、申し入れの場をなごやかにする面もあり、共通のなやみを持つ自治体同志として、一緒にやれることを探し、広げていきたいと思います」という提案は良かったと思う。キャラバン隊は岩国市役所を出て、とにかく広島へ。高速を使って、歓迎の「安保・沖繩講演学習会」開会の5分前に到着。実数二〇〇人近くが県内各地から集まり、会場の県立生涯学習センター

6/20 平和資料館から 呉へ

翌六月二〇日、雨のせいもあったが、平和資料館に着いたのは、五分遅れとなり、皆が待っていた。早速、会議室に向かう。原田浩館長が対応。沖繩の三人、岡本代表を中心として、計一六名で要請。テレビ四台を含めマスコミは総出で待っていた。キャラバンを代表して鳥袋さんが主要な説明をし、要請をする。その後、花城さんが、いつものようにして沖繩県知事からのメッセージを紹介しつつ、申し入れた。最後に岡本さんが私たちの要請書をかみ砕いて説明し、要請項目を読み上げた。市側は、「沖繩との交流は以前からもある。それを大事にしていきたい」。しかし広島市には米軍基地がないため、今一つどこまでかみ合ったかはわからない。雨がすごく、霧で視界が悪い中、呉に向かった。呉のメンバーも加わって一〇人で申し入れ。対応は、久保総務部長。

かわったばかりで初めてのこともあったか、緊張気味。鳥袋さんが中心になって、いつもの要請をし、呉市としても丁寧に答える。大城さんが、「米軍の弾薬庫について、市として、また市民はどう思っているのか」と質問。総務部長は、過去に返還決議をあげており、また旧軍港市振興協議会としても返還についての要請をしてくれていると答える。こちらから若干のフォローとして決議をどう具体化しようとするのか、また跡地利用も含め、沖繩のようなアクションプログラムを作る用意はないのかと問いただした。呉港開発計画には、埠頭用地として位置づけられていることがわかった。広島実行委員会としての要請書を出そうとすると、「今日は沖繩からの要請と言うことなので受け取れない」とかたくなな態度。縷々説明して、キャラバンの一環としての要請であることを話して初めて、やっと受け取る気になったようだ。その後、海上自衛隊基地と広弾薬庫を案内して、四時半過ぎ、広駅で解散。アツという間だったが、とにかく無事終えることができた。花城さんが言っていた、点と点を結び、線にする作業としては、広島、山口的にも一応成功したと思う。自

治体の体質は、そんなに簡単に変わるものではないが、沖繩の自治体からのメッセージを携えての要請と言うことで、何らかのものを残したはずだ。岩国、山口、呉市、広島市と三者三様の立場があることがよくわかった。なによりもキャラバンの受け入れを通じて、広島としての実行委員会を作り、岡本さんを代表として、市民運動、新社会党、そして広教組などとも連携できたことは大きい。このような形で沖繩とのパイプが全国で作られたことで、これからの運動の大きな財産ができたと思う。

(ピースリンク広島・呉・岩国/湯浅一郎)

6/26 神奈川入り 厚木基地周辺から相模原

キャラバンカーは雨の中静岡から神奈川入り。正午大和市役所に到着。出迎えてはキャッチピース田巻、山中、柏瀬。沖繩代表は鳥袋宗康参議院議員、新垣さん（鳥袋議員秘書）、上原さん（一坪反戦地主会関東ブロック代表）、大城さんの四人。一時から大和市訪問。助役面会。

キャラバン成功のご報告とお礼

● 前号でお知らせした、「沖縄発全国キャラバン」(沖縄社会大衆党他による実行委員会)から、各地の様子の一部です。キャラバン隊は6月28日には東京で北ルートと南ルートが合流、都庁、政府への申し入れや街頭宣伝を行った後、集約集會を持ち全行程を終了しました。

● 「キャラバン・ニュース」最終号から、実行委員会のメッセージを転載します。

● 全国各地の皆さん、沖縄発全国キャラバンへのご協力ご賛同ご参加本当にありがとうございます。心よりお礼を申し上げますとともに「点と点をむすぶ」キャラバンとして全国北は北海道から南は九州から当初の目的どおり実現できたことを喜びたいと思います。また各地のキャラバンを準備してくださった方々には、様々なご心配をおかけしたことにお詫びしたいと思います。このキャラバンが新たな闘いの出発点となることを期待して—

● 7月末には報告パンフレットが発行される予定です。

● キャッチピース編集部では、神奈川の二日間をアレンジさせていただきました。報告文中に登場する地方議員、運動体の皆様には自治体との面会設定などで一方ならぬ世話になりました。ありがとうございました。(編集部)

当地の実力者、厚木基地爆音防止期成同盟委員長鈴木保氏、石郷岡綾瀬市議が同席。「大和市はよくやっているヨ。ダメなのは県」という鈴木氏の言葉に助役は苦笑。

厚木飛行場視察。説明役は鈴木氏。NHKテレビ取材。三時綾瀬市訪問。見上市長面会。石郷岡市議同席。「厚木基地の四分の三が市域にあり街づくりに影響あり」と市長。NHKテレビ取材(放映は同日夕方六時)。

四時座間市訪問。助役面会。厚木基地爆音防止規制同盟の伊沢副委員長が同席。ここでも最大の基地被害は厚木の爆音なのだ。キャンプ座間は事務所と住宅なので住民被害はほとんどないと落ちついたもの。

五時相模原市訪問。企画部長面会。金子市議同席。相模原の基地状況をまとめ

たパンフレットを各自の机の上に置き、キャラバン隊と話し合う姿勢を見せていた。今日回ったすべての市では自治体からカンパが寄せられた。六時三〇分から分横浜・かながわ県民活動サポートセンターにて市民三〇名と支流。厚木、横須賀、上瀬谷から県内各基地の現状報告もあった。

6/27 厚木基地周辺から相模原

九時三〇分逗子市訪問。平井市長面会。小田市議、中村市議、塔本市議同席。沖縄代表は、有銘さん(違憲訴訟支援県民共闘会議議長)、新垣さん(鳥袋議員秘書)の二人。応援は阿部さん(川崎)、清水さん(横須賀NEPAの会)、原田横須賀市議が合流。そして山

中。「弾薬庫より住宅の方が市民生活に汲ぼす影響は少なく、基地撤去も目指しやすい」との市長見解。市からカンパ。地元有志からもカンパ。池子住宅視察。「日本人は入れない!」の固い決意あり。ありのゲート前の過激警備に「沖縄にもないこと」と有銘さんピクリ。逗子のこれまでを小田市議に聞く。小高い丘に上がり清水さんの案内で横須賀基地視察。海上自衛隊の基地との共存共栄ぶりが一目でわかる。米艦船、リムパック帰りの自衛隊艦船が横たわる。午後一時横須賀市訪問。助役面会。原田市議同席。清水さん、小田市議、阿部さん、山の中に加え、横須賀市民の鳥海さん、広沢さん参加。「沖縄訪問と戦争体験があり、個人として沖縄の立場、主張を理解」と助役。市政の現実との差に着水さん「?」。市政記者クラブにて記者会見



室谷副知事へ大田沖縄県知事からのメッセージを手渡す瑞慶覧(すひらん)さん(右)

県庁

「神奈川新聞」(六・二八)

(神奈川、東京、共同)。全駐労働須賀支部訪問。横須賀地区労正木氏面会。「細々ながらがんばっています」。三時横浜市訪問。総務局長面会。青景県議(神奈川ネット・前横浜市議)同席。市内に十カ所の基地を持つ自治体のわりにはあっさりしたもの。清水さん、山中、大久保さんが東京から。三時四五分神奈川県庁訪問。室谷副知事面会青景県議同席。瑞慶覧さん(社会大衆党顧問)が加わり沖縄から三人。清水、大久保、山中参加。マスコミ多数。但し、県側の意向で手渡し写真撮影のみで退室。「涉外知事会(涉外関係主要都道府県連絡協議会)会長として九月の事件直後には抗議声明を発表。ともにがんばりましょう」と副知事。しかし神奈川県は過去知事会での基地撤去実現に向けての沖縄提案に賛同しなかった経過がある。六時三〇分横須賀・教育会館でNEPAの会、非核市民宣言運動ヨコスカのメンバーら十名との交流会。多額のカンパと熱い連帯がキャラバン隊に寄せられた。

(キャッチピース/山中悦子)



● マンションの管理組合の総会があった。戸数の多いマンションで年間予算は一億四千万円。今期は地震保険の加入をめぐっての討議。説明のないまま通すぞという理事長の迫力だけが伝わってきたので、「ちょっと待って」と私。ついでに「提案者も議長もタバコを止めて」と一言。男の人ってタバコを吸いながら人前で偉そうにするのがそんなに嬉しいのかしらと思ってしまったのですが、コレって偏見? 結局この件は継続審議に。それはそうと沖縄発全国キャラバンを迎えて三日間自治体を走り回った。その間、政治家にも、行政マンにも、ジャーナリストにも、いつもどこかでなんとなく小さな違和感を覚えて過した。(や)

● 六月後半はまさしく金網デスマッチ状態であった。仕事関係でも運動カンケイでもいくつもの「メ切」を抱え、誰かタオルを投げてくれ、いますぐわーっと逃げるからワシという毎日が続いた。まだ終わっていない。なぜならこのニュースは「六月号」なのだから。(た)

原子力艦 入港情報

(83)

1996.5.21~7.7

S=原子力潜水艦(原潜)ステーション級
L=原子力潜水艦(原潜)ロサンゼルス級

| 横須賀 | | |
|-----|------|----------------------------|
| ◆ | 5/30 | 06:55 原子力空母カールビンソン入港。 |
| ◆ | 同日 | 08:55 原子力ミサイル巡洋艦アーカンソー入港。 |
| ◆ | 同日 | 09:49 原潜ジェファーソンシティ(L)入港。 |
| ◆ | 同日 | 10:18 原子力ミサイル巡洋艦カールビンソン入港。 |
| ◇ | 6/2 | 07:07 原潜ジェファーソンシティ(L)出港。 |
| ◇ | 同日 | 08:00 原子力空母カールビンソン出港。 |
| ◇ | 同日 | 08:57 原子力ミサイル巡洋艦カールビンソン出港。 |
| ◇ | 同日 | 09:30 原子力ミサイル巡洋艦アーカンソー出港。 |
| ◆ | 6/4 | 14:08 原潜キャバラ(S)入港。 |
| ◇ | 6/12 | 13:57 原潜キャバラ(S)出港。 |
| ◆ | 6/21 | 09:58 原潜ホークビル(L)入港。 |
| ◇ | 6/22 | 08:58 原潜ホークビル(L)入港。 |
| ◆ | 6/23 | 12:27 原潜ホークビル(L)入港。 |
| ◇ | 6/25 | 13:59 原潜ホークビル(L)出港。 |
| ◆ | 6/29 | 13:51 原潜サンフランシスコ(L)入港。 |

横須賀累計(うち原潜):14(11)

| 佐世保 | | |
|-----|--|--|
| なし | | |

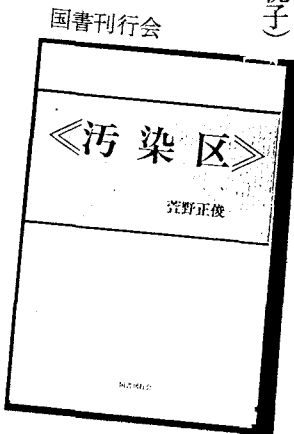
佐世保累計(うち原潜):4(4)

| 初代ビーチ(沖縄・勝連町) | | |
|---------------|------|--------------------------|
| ◆ | 5/25 | 14:10 原潜キャバラ(L)入港。 |
| ◇ | 5/27 | 09:18 原潜キャバラ(L)出港。 |
| ◆ | 5/27 | 14:35 原潜バミガム(L)入港。 |
| ◇ | 同日 | 15:48 原潜バミガム(L)出港。 |
| ◆ | 5/31 | 09:17 原潜キャバラ(S)入港。 |
| ◇ | 6/1 | 09:45 原潜キャバラ(S)出港。 |
| ◆ | 6/13 | 09:41 原潜ピンタド(S)入港。 |
| ◇ | 6/17 | 08:50 原潜ピンタド(S)出港。 |
| ◆ | 6/25 | 09:10 原潜ピンタド(S)入港。 |
| ◇ | 同日 | 15:46 原潜ピンタド(S)出港。 |
| ◆ | 6/28 | 09:41 原潜ピンタド(S)入港。 |
| ◇ | 6/29 | 09:50 原潜ピンタド(S)出港。 |
| ◆ | 7/3 | 09:38 原潜アジュビル(L)入港。 |
| ◇ | 同日 | 10:05 原潜アジュビル(L)出港。(沖停泊) |

初代ビーチ累計(うち原潜):10(10)

●1996.1.1から5.20までの各地の原子力艦入港数:

| | |
|---------|--------|
| ()内は原潜 | |
| 横須賀 | 14(11) |
| 佐世保 | 4(4) |
| 初代ビーチ | 10(10) |
| 合計 | 28(25) |



続々と生まれてくる
 続々と死んで産まれてくる
 『種のうめき』
 このおびただしい白き血の子供らに
 白き病床に伏す事を強いた わた
 しろの
 愛なき生活態度を背後に隠して
 いかなる愛の言葉を手向けられ
 よう
 その両親でさえも
 いかなる謝罪の言葉を持ち合わせてい

よう
 明らかじめ
 * *
 きみを得る前からきみを失ない
 『汚染区』
 「もつともつと早くから 気づくべき
 事だったー 僕らが愛し尽くさねばなら
 ぬー この宇宙のー この惑星の
 ……」
 萱野さんは、地球が愛し尽くしてと懇
 願していると私たちに教えられる。だが

ら、間に合ううちに、一刻も早くみんな
 目を醒してこんな時代に終止符を打って
 くれと訴える。これから生まれてくる子
 供たちの、そして私たちの地球の心から
 の叫びを聞かなくてなんとするのだ。
 (山中悦子)

この詩集は、一刻を争う二〇世紀末もしくは二一世紀初頭の、人類の生き残りの為の軌道修正に一石を投じる事を目論んでいるが為に…(「著者からのおことわり」から)
 キヤッチピースの事務所に萱野正俊氏の詩集「汚染区」が届いた。萱野氏は、北半球の核汚染から愛児の未来を守るために「日本最初の原発難民」として一九八七年にフィジーに移住した自称「えせ詩人」。移住後も会員として「キヤッチピース」の読者であり続けて下さっている方です。
 以下、詩人にも読者にも非礼かと思いますが、素人の読後感想文付き「汚染区」紹介。この詩集は、人間にとつてもっとも必要な才能は「想像力」であることを証明する。想像力さえあれば人間は、真に豊かに人間らしく生きることができるといふことがよくわかる。
 詩集は、想像力に欠けるが故に平然と生み出し、継続させている私たちの危険きわまりない核との

フィジーから届いた詩集

萱野正俊著 「汚染区」

共存生活をたっぷり描いている。詩の中で私たちは、美しい言葉が語る美しい情景にも、心地好い韻が奏でる心地好い風景にも出会える。けれど詩人の想像力によってこれでもかこれでもかと次々に明らかになるこの世の危機的状況に、あつという間に胸はふさがる。
 この人の想像力のたとえ一部なりとも世界中のすべての人々が持つことが出来たならば、世界はきつと変わるだろうにと思つと残念でならない。おつと、それをどうするかこそが私たち一人一人の(私の)責任なのだといふこともこの詩集は教えてくれているのだ。

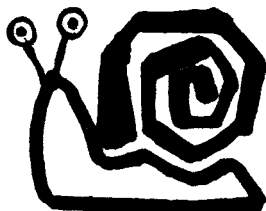
《臨時ニュース・臨時ニュース》
 若狭 壊滅! 若狭 壊滅!
 今早朝の福井県沖巨大地震にて若狭壊滅!
 少なくとも数基の原子炉が爆
 発炎上!
 残る多くの原子炉も緊急停止に失敗し(中略)
 かかる悲報を わたしらは受ける事を
 日々になきわどく免れつつ…
 なおも悲報の原稿は続々と準備されてゆく…
 《福島 壊滅! 福島 壊滅!…
 《伊方 壊滅! 伊方 壊滅!…
 ……
 《日本 壊滅! 日本 壊滅!…
 《万歳の日本・居住不可地帯》
 この日々は哀しくはないか?
 業欲の人々の為すに任せた われらの歴史がこれほどに永い世紀をもて人類に選択の猶予を許してきたものを! 今 われらの時代に歴史は転落への最後の分岐を盲進している
 (後略)
 《亡国の民》
 ブルトニウムを
 誕生石とする子供達が

会費・カンパを
ありがとうございます。
ございます。

かさねてご協力をお願い

● さっそく会費、カンパをありがとうございます。何人もの通信会員の方が3000円の会費にカンパ2000円を追加して5000円！ また「護憲、反基地の願いを込めて夏季カンパです」「わずかですがご健闘を祈ります」などのメッセージも。会計冥利につきます。

● 今回のお願いが「ボーナス」の時期には少し早かったためか、目標額にはまだ足りない状態です。この時期の会費とカンパで冬までの半年をなんとかやりくりしているのがキャッチピースの財政です。かさねてご協力をお願いいたします。(や)



月刊キャッチピース

No.43 (通巻122号)

発行●脱軍備ネットワークキャッチピース
連絡事務所●〒222 横浜市港北区錦ヶ丘
10-4 ハイッ幸1-B

☎ 045(433)3483

FAX 045(593)1824

E-MAIL QZT04441@niftyserve.or.jp

編集●月刊キャッチピース編集委員会

郵便振替●00160-7-136148キャッチピース
定価●100円 (通信会員年間3000円)

会計報告

(96.5.22~96.6.24)

[収入]

| | |
|-----------|---------|
| ○前月からの繰越し | 62,468 |
| ○今月の収入 | 252,000 |
| 会費収入 | 220,000 |
| (内訳) 維持団体 | 24,000 |
| 維持個人 | 48,000 |
| 参加団体 | 0 |
| 参加個人 | 18,000 |
| 通信会員 | 130,000 |
| カンパ収入 | 17,000 |
| 預金利子 | 0 |
| 資料収入 | 15,000 |
| 運動収入 | 0 |

[支出]

| | |
|-------------|---------|
| ●今月の支出 | 95,468 |
| 事務所代 (6月分) | 40,000 |
| 水道光熱費 | 5,079 |
| 電話FAX費(6月分) | 4,037 |
| 郵送費 | 43,532 |
| 文具・備品 | 0 |
| 印刷・コピー代 | 0 |
| 郵便振替等手数料 | 2,820 |
| 雑費 | 0 |
| ●次月への繰越し | 219,000 |

*行動費は行動プロジェクト毎の独立採算となっているため、それにあてはまらない収支のみがこの欄に計上されます。

よろずピースバンド PRESENTS

基地はいらない
どこにも

NOW ON SALE

カセットテープ●800円